

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事コンピュータ I Computer Medical Practice I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(医療機関における病歴管理)	メディカルクラークユニットを履修している学生のみ。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
コンピュータリテラシー I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
メディカルクラークユニットの科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川 貴子	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
我が国のIT化に伴い、全国の病院も電子化され包括医療・DPCを取り入れている。DPCに欠かせない、ICDコーディングの基礎と、ICD-10・ICD-9-CMなど疾病分類の習得を図る。				
授業の目標				
① ICD-10・ICD-9-CMに関するコーディングの知識を習得し疾病分類ができるようにする。 ② DPC算定によるICDコーディングの必要性を説明できるようにする。 ③ 病名以外の記載内容を理解し分類ができるようにする。				
授業の方法				
PCの操作を学習しながら、様々な疾患及び関連疾患の講義・演習問題を繰り返し、ICDコーディングの基礎の習得を図る。				
学習の成果(学習成果)				
① 世界保健機関(WHO)による疾病分類をすることができる ② ICDコーディング検定3級に合格できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 PC操作について			
第2回目	ICDコーディングのコードの構成とコーディングの手順			
第3回目	コーディングの手順と例題			
第4回目	注釈・略語・記号の意味、相互参照・関連用語について			
第5回目	単一・複合・ダブル・多発病態コードについて			
第6回目	任意的追加コード、続発・後遺症コードについて			

第7回目	新生物コードについて *レポート (提出日は授業内で指示)	
第8回目	産科関連コードについて	
第9回目	新生児関連コードについて	
第10回目	症例に基づくコーディング (症例1~10)	
第11回目	症例に基づくコーディング (症例11~25)	
第12回目	症例に基づくコーディング (症例26~40)	
第13回目	外因コードについて *レポート (提出日は授業内で指示)	
第14回目	症例に基づくコーディング①	
第15回目	症例に基づくコーディング②	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	基礎知識・演習を理解している。授業に集中して取り組んでいる。
レポート	10%	宿題等で提出を求めた課題の内容と提出率で評価する。
調査報告書		
小テスト	10%	授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
試験	50%	授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容 (態度含む)		
その他	10%	検定試験の合否により加点する。
教科書と参考図書		
I C Dコーディング基本テキスト (日本コーディングセンター)		
履修上の留意点・ルール		
演習問題が中心となる。P C操作がスムーズにできるよう基本を理解すること。I C Dコーディング検定を受験する場合は必ず履修すること。		